



2019年3月9日／全3枚（本状含む）  
発信元：日本女子大学広報課

報道関係各位

## 第14回「平塚らいてう賞」贈賞式を開催

日本女子大学では本日午後、第14回「平塚らいてう賞」贈賞式を本学新泉山館大会議室（目白キャンパス）で開催し、顕彰を受賞した青木千賀子氏と三具淳子氏に対して、蟻川芳子選考委員長から賞状と副賞賞金を贈呈いたしました。

14回目の今回は、顕彰9件と奨励3件の応募がありました。顕彰はこれまで際立った功績をあげた方へ授与し、奨励は研究や活動を継続的に行っている方、あるいは新たに取組もうとしている方に授与します。今回は厳正な審査の結果、顕彰受賞者2名（奨励は該当者なし）を決定しました。選考理由につきましては平塚らいてう賞ホームページにて公開しております。 <http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/prize.html>

「平塚らいてう賞」は「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対して、顕彰と奨励をはかることを目的に創設されました。

募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えることや今後の活動が進展することを願い、全国で研究や活動を行っている個人または団体を対象としています。

本賞は平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会をつくるために行っております。今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の本賞への応募を期待しております。

お問い合わせ先

日本女子大学 入学・広報部 広報課「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176 FAX. 03-5981-3164





平塚らいてう賞選考委員長 蟻川 芳子 あいさつ

「平塚らいてう賞」は、本年第14回目の贈賞式を迎えました。本賞は日本女子大学校家政学部3回生の平塚らいてうの遺志を尊重し、「男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動」の顕彰と奨励をはかることを目的としています。

現在世界は女性の活躍を支援し期待しています。女性問題を世に印象づけた月刊誌『青鞥』を創刊、婦人参政権運動に力を尽くし、さらに「世界平和アピール七人委員会」の初代メンバーとなるなど平和活動家として注目を浴びた平塚らいてうは、「道なき女性の活躍の道」を拓いた先駆者です。

このような平塚らいてうの活動を称え、その遺志を後世に引き継ぐために、これまで13回にわたり多岐な研究活動に対して顕彰および奨励を行ってまいりました。本年度も本賞の趣旨に相応しい優秀な研究2件を顕彰することができましたことを、嬉しく思っております。本賞の更なる発展と、社会への貢献を心より期待いたしております。

～第14回「平塚らいてう賞」贈賞式リーフレットから～

## 第14回「平塚らいてう賞」＜顕彰＞ 受賞スピーチ(要旨)

青木 千賀子氏

### 研究テーマ：ネパールのダリット女性の地位向上とマイクロファイナンスの活動

本研究は、ネパールの「ダリット(Dalit、底辺労働を担う職業集団)」とよばれる、カースト制度の最底辺に置かれた女性グループによるマイクロファイナンス(MF:microfinance、小口金融、毎月の集金・貯蓄・貸出による所得向上)の活動に着目し、これらの活動とソーシャル・キャピタル(SC:social capital、社会関係資本、「信頼・規範・ネットワーク」による協調行動)の構築・醸成が、どのように貧困削減、差別構造の解消に寄与し、女性の地位向上に役立っているのか、実証的研究を行ったものです。

聞き取り調査は、ネパール西部～東部の32の地区で、2009年(半年間滞在)～2018年まで継続して行ってきました。

カーストによる階層やジェンダー、地域間格差の構造的問題が明白になりましたが、中でも売春を職業として宿命づけられているバディ(Badi)は、「生きづらさ」を象徴するカーストに思えました。このバディ女性たちと話し合い(グループに原資の貸与/支給を含む)、養鶏、養豚、そして店の開設等による所得創出のMF活動を開始し、異カーストとの混合研修やNGOとの連携が可能となりました。MF活動とSCの相乗効果が、ディーセントワーク、貧困削減や女性の地位向上に貢献し始めており、今後は持続可能な開発につながるよう研究を進めたいと考えております。

お問い合わせ先

日本女子大学 入学・広報部 広報課「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176 FAX. 03-5981-3164



## 三具 淳子氏

**研究テーマ: 夫婦の平等な関係構築と妻の就業変容との関係を動的に探究すること**

拙著『妻の就労で夫婦関係はいかに変化するのか』(ミネルヴァ書房 2018年)は、女性就労の意味を夫婦関係という視点から読み解いたものである。

既婚女性の就業行動は、夫婦というミクロなレベルと全体社会というマクロなレベルにおける労働のジェンダー配置の結節点として位置づけられる。近年、女性の高学歴化が進み社会参加の機会は徐々に広がっている。しかし、いまだに結婚における男女の役割には大きな偏りがあり、その結果、M字型就労を経験する女性が大半を占める。

夫婦の平等な関係は妻の就業状況によって異なるとされる。結婚のスタート時点で共働きを経験した夫婦が、妻の離職によって夫片働きの夫婦へと移行するとき、その夫婦関係はどのように変化するのか。調査から、妻の経済的自立基盤の喪失は夫との親密な関係の維持を困難にする一方、妻の再就職は夫婦の平等な関係の再構築に向けた現実的選択であると言える。

以上

お問い合わせ先

日本女子大学 入学・広報部 広報課「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176 FAX. 03-5981-3164